

コミケピギナーのための 超・速・解 アドバイス

ComiNavi



初回以来40年という時間を経て、開催回数もそろそろ3ケタの大台が見えてきたコミケット。

毎回同じように見えても確実に経験は蓄積され、アップデートは進んでいます。参加者だって、そうありがたいですね。既存のテクニックをアレンジして、自分に一番ぴったりの参加スタイルを作っていきましょう！

■■デスマッチ 体力vs暑さ■■

例え健康で体力に自信があっても、何の備えもなく真夏の炎天下や蒸し暑い屋内にずっといれば日焼けもするし、熱中症や脱水症状にもなる。これは体力の有無とは無関係の現象だからだ。

体力を過信して備えを怠れば、自分でも予想もしなかったくらいあっさりと、人は倒れる。コミケットで倒れる参加者の多くが、『まあ、行けば何とかなるだろう』と準備や装備を整えずに来場してしまったケースだ。

もしアナタが倒れたら（もちろんあなたの参加自体台無しになってしまうのだが）、周囲の参加者にもスタッフにもアナタを救護するための負担がかかる。それが何十人、何百人になってしまうのがコミケットというイベントの規模だ。過酷な環境に曝されるのはアナタ1人ではない。アナタが倒れそうな時は一緒に並んでいる他の参加者だって倒れそうなものかもしれない。

自分のため、コミケット全体のために、待機場所や会場の状況を知り、的確な準備をして当日に臨むのは参加者の責任なのだ。

■待機を制するには先ず日射しを制すべし■

開会時間となる午前10:00以前にコミケットの会場である東京ビッグサイトに到着したら、まずは入場待機列で待機することになる。晴れていれば夜明けと共に強い日射しが降り注ぎ、場所によっては日陰もろくに無い。さらに地面のアスファルトやコンクリートからの照り返しが参加者の待機する地面付近の気温をさらに押し上げる過酷な環境だ。

入場した後も企業ブースや大手サークルの待機列に並ぶのなら、さらに炎天下での待機は続く。夏だからと肌をさらした軽装で来場していると、日焼けもするし、直射日光にあぶられて体温も急上昇。これで長時間の待機などしたら、ダウンするなという方が無茶な相談だ。また、素肌の露出した部分を日焼けしてしまうと、その後ずっと痛みに耐え続けなくてはならない。

待機時間中体力を温存するためには、まずは日射しを制しなければならぬ。もっとも、そのための方策は単純明快で、日光を直接肌に当てなければよいのだ。

鉄則 何は無くとも帽子は必須

夏コミに臨む参加者にとって帽子は必要不可欠な装備。カタログにも書かれている。あまり頭を締め付けない、軽く通気性の良いものが望ましい。

鉄則 顔、首、肩、耳は絶対防御

例え帽子をかぶっていても、そこから露出した部分が日射しにさらされては意味が無い。タオルなどをかける、日焼け止めを塗るなど、忘れずに対策しよう。

特に首は直射日光が当たっていると体温がどんどん上がって熱中病の原因となる上に、日焼けするとバッグやシャツの襟で擦れて非常に辛い思いをすることになるので絶対にむき出しにしておいてはいけない。

